

この度、第27回県学会広報局では3月開催の学会に向けて、皆様と一緒に学会を作り上げ、盛り上げていけるよう様々な取り組みをしております。

その一環として、昨年度学会において演題賞を受賞された先生方や諸先輩方にインタビューをさせて頂いております。

今回は、県士会副会長であります高橋先生にお話を伺うことができました。



直撃インタビュー 千葉県理学療法士会 副会長 高橋 聡 先生



インタビュー

高橋先生、この度はインタビューをお引き受け頂きありがとうございます。

先生は県士会での活躍は勿論のこと、養成校教員として後進育成に励まれております。

本学会では学生さんの参加も受け入れております。千葉県には養成校が多く存在しますが、県学会へ参加される学生さんにコメントを頂けると幸いです。

高橋先生

学生の皆さん

皆さんが将来目指している理学療法士は、臨床だけでなく研究もしております。

『学会』は、理学療法の発展のため、日々の研究成果を、世の中に発信する場所です。

そこで多くの人々が学び、それぞれの臨床に持ち帰り日々の治療の参考にする。

そして今度はその理学療法士がその結果を学会で発表する。

このようにして、1つの研究が様々な人々の治療・研究の糧となり、その人々がまた発表し、正の連鎖を生んでいくことで理学療法の進歩につながっていくのです。

学会は一度に多くの研究を学ぶことができます。もちろん聴講のみでも、とても勉強になります。

しかし、聴講して日々の臨床に役立てるだけでは進化には繋がりにくいと思います。その治療の結果を皆さんが世の中へ発信することで理学療法の進化に繋がっていくのです。

学会発表や研究というと、難しそう…、大変そう…。答えられないことを質問されたらどうしよう…。など、様々な不安要素があり敬遠してしまいがちかもしれません。

大丈夫です。研究と言っても日々の目の前の患者さんの治療での疑問や経験などを発表すればいいのです。きっとそれを聴講した理学療法士がその成果を様々な可能性に繋げてくれるからです。

また、千葉県理学療法士学会のコンセプトの1つは研究発表経験の少ない理学療法士が発表にチャ

レンジしやすい優しい学会でもあります。

様々な学会発表サポートシステムもあります。

是非、県学会では理学療法士の先輩方がどのような研究をしているかを見て、皆さんの将来の研究活動の糧としていただければと思います。

インタビュアー 

今年度学会のテーマは『理学療法の“シン”を問う』です。

先生がお考えになる“シン”、またその“シン”を選択された理由をお教えてください。

 高橋先生

私のシンは「信」です。

この「信」は「信じる」という意味です。

日々、臨床で研鑽を積み、努力し、多くの人々を救っている理学療法（士）の可能性を信じております。

また、養成校の教員という立場からも、そのような理学療法士になるべく、日々頑張っ勉強している若き可能性を信じて教育に携わっています。

このように、理学療法士一人ひとりの努力が繋がっていくことで、理学療法によって人々が幸せに暮らしていける世の中になることを信じております。

インタビュアー 

先生は本学会においても準備委員相談役として、ご活躍頂いております。

本学会の魅力など教えてくださいませんか。

 高橋先生

本学会はコロナ禍における2回目のリモート学会です。精鋭ぞろいの準備委員会のスタッフが前回学会の反省点を改善し、千葉県士会リモート学会完成版となることでしょう。

スタッフの皆さんの仕事を拝見して、相談役として何も不安要素がありません。

また、斬新な発想で魅力ある講演プログラムから、100演題を越えた発表。参加者の皆さんもきっと楽しみにしていると思います。

参加者の皆さんの期待通りの学会になると思いますので是非多くの方々にご参加いただければと思います。

インタビュアー 

最後の質問となります。

コロナ禍、学会開催方法が対面式からオンラインへ変化してきました。

先生がお考えになる学会の楽しみ方など、是非教えてください。

